

学校の中で広がる プロジェクター活用例

GIGAスクール環境の導入により、校内さまざまな場所で、子どもたちは1人1台端末を使った学習活動ができるようになりました。プロジェクターは、アイディア次第でさまざまなシーンでの活用が可能です。小型のものは、持ち運びやセッティングも容易なため、体育館や特別教室などのあらゆる場所で活用することができます。竹早小学校でも、授業だけでなく、学芸会や展示会などのほか、子どもたちのつくった花火のプログラムを天井に投写するなどの成果発表に使ったり、Zoomと連携させて体育館に集合せずに教室で終業式を行ったりと、授業以外にもいろいろな使い方をしています。



オンライン集会に
体育館に集合することなく教室で参加
モニターには話し手の先生を、プロジェクターでは各教室から参加している子どもたちの様子を投写



図書室の活動に
大きな画像で本の使い方を説明



学芸会の舞台の背景に
場面転換は子どもたちの端末で操作が可能

プロジェクター導入事例



普通教室での
2画面投写を
活用した授業

東京学芸大学附属
竹早小学校

学校現場で活躍するエプソンのプロジェクター

プロジェクター EB-L210SW の特長

- 短焦点レンズで設置も邪魔にならない!
「短焦点レンズ」は大型ハーフカットレンズを採用。83cmの距離で、ワイド80型に投写できます。
- 充実したネットワーク機能
無線LANおよびスクリーンミラーリング機能に対応しているのでスマートフォン・タブレット・ノートPCなどからワイヤレスで写真や動画を投写できます。
- レーザー光源採用
ランプ交換が不要で導入後のコストと手間がかかりません。



型番：EB-L210SW
価格：オープンプライス
スクリーン解像度：WXGA
明るさ：全白4,000lm／カラー4,000lm



プロジェクター EB-810E の特長

- 影ができるにくく眩しくない「超」短焦点レンズでパッと置いて、
すぐに大画面。
10cm^(注)の投写距離でワイド100型の大画面を実現する、超短焦点レンズ採用。
(注) 本体後端から投写面までの距離
- レーザー光源採用
ランプ交換が不要で導入後のコストと手間がかかりません。
- 部屋が明るいままで映像を投写することが可能
照明を消したり、カーテンを閉めずにプロジェクターを使用できるので、授業や会議を中断することなく、すぐにプロジェクターが利用できます。



型番：EB-810E
価格：オープンプライス
スクリーン解像度：4K^{*}
明るさ：全白5,000lm／カラー5,000lm
*シフト技術採用した4K相当の解像度となります。



プロジェクターに関するご相談・ご質問は、下記までお問い合わせください。

ビジネスプロジェクターに関するお問い合わせ

050-3155-8700

受付時間 9:00～17:30 月曜日～金曜日(祝日、弊社指定休日を除く)

上記電話番号はKDDI株式会社の電話サービスを利用しています。

エプソンの教育市場向けホームページ
epson.jp/eduJ/



エプソン販売株式会社

2画面投写を活用して 子どもの主体性を引き出す授業とは



普通教室に、プロジェクターをプラス

2画面投写による課題の提示と共有から主体性を引き出す

東京学芸大学附属竹早小学校では、さまざまな授業で大画面装置を活用しています。5年生の中村亮太先生のクラスでは、普通教室にプロジェクターを一つ導入し既存モニターとあわせて2画面で「ARでぼくらの学校トランسفォーメーション計画」という授業を行いました。

手軽にスマートフォンで3Dスキャンができたり、ウェブ上で簡単にARを作成できるサービスも登場するようになり、ファーストフードやお菓子のおまけなどにもARが取り入れられています。このように子どもたちの生活の中で提供されているようなARコンテンツを自分たちでも作成できると

いうことを実感し、こうした活動・経験を通してテクノロジーを活用して創造するという姿勢を育んでいくことがこの授業のねらいです。

モニターには、さまざまな事例を提示しながら、実際に先生がカメラを使ってプロジェクターにARを映し出したり、アイデア出しではテーマや課題シートを大画面で共有します。その後、グループごとにアイデアをまとめ、模造紙にみんなで書き込みました。お互いのアイデアを共有することで、他者の発想から新たな着想を得て、多様なアイデアを引き出し、主体性を育てていきます。

画面活用のポイント



鮮明にみせたいものはモニターで、大きさを変えたり、より大きく写したい時はプロジェクターといった使い分けをしています。



子どもたちは、大きな画面に提示されたテーマや事例を振り返ったり、他の意見に目を向けたりしながらそれぞれに自分の考えをPCで書き込んでいきます。



一緒に大きな画面でみると共通の話題が生まれます。
時間と空間を共有する、それが大切だと考えています。

東京学芸大学附属竹早小学校 中村 亮太 先生

一つのものを一緒に大きな画面でみると、子どもたちの中に共通の話題が生まれ、反射的につぶやいたり、さまざまな意見がでてきます。

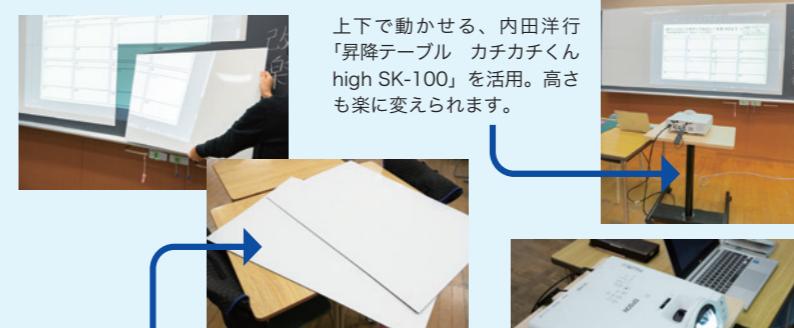
これまで、授業の展開上、ずっと映しておきたいものがあつても、モニターしかないと他にも映したいものがあるときは、1画面で内容を切り替えざるを得ませんでした。このような情報を提示する際によくスライドなどで言われる、子どもたちの意識の中で「流れていってしまう」という弱点も、2画面あると1つは同じものを留めて提示しておけるので強化できるように思います。

さらに言えば、デジタルを活用しながらもアナログな活動も欠かすこと

はできません。特に、集まって何かを話し合う、書き込むなどの身体活動を伴う作業は主体性を育んでいくプロセスには非常に重要な感じています。

テクノロジーの進化は、子どもたちにとって表裏一体です。私が、ICTを使いARなどの新たな技術を授業に取り入れていきたいと思うのは、大人が率先して新しいものにチャレンジし、子どもの良いお手本となるような使い方を提示できれば、「これなら私にもできるかも」と自分の主体性を發揮できるような、新たな表現方法を子どもたちが手に入れられるのではと考えているからです。

設置は簡単！



上下で動かせる、内田洋行「昇降テーブル カチカチくん high SK-100」を活用。高さも楽に変えられます。



サカワの「黒板着せかえパネル『KisePa (キセパ)』」を活用。簡単に貼り付けて、ホワイトボードにできます。

2画面投写を実現するため プロジェクターが選ばれるポイント★

2つのモニターを入れるのは
広いスペースがないと大変！
(通常教室では難しい…)

プロジェクターであれば
スペースの問題もない！
手軽に2画面の環境を
教室で実現できます！

※掲載している各製品のお問い合わせは各社までお願いいたします。(株式会社サカワ/株式会社内田洋行)